

ラクロス女子19歳以下日本代表 報告書

2019年度U19
GM 村松圭子
HC 庄子寛之



アジェンダ

1. スタッフ体制
2. 活動内容
3. 大会について
4. 振り返り

アジェンダ

1. スタッフ体制
2. 活動内容
3. 大会について
4. 振り返り

スタッフ体制 (正式スタッフ)

Management



ゼネラルマネージャー
村松圭子



マネージャー
平田有希

Coaches



ヘッドコーチ
庄子寛之



アシスタントコーチ
敷浪一哉



アシスタントコーチ
小西那奈

Training

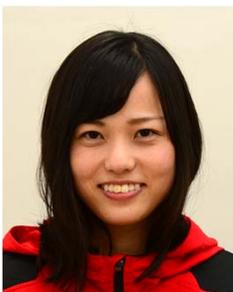


トレーニングコーチ
塩多雅矢

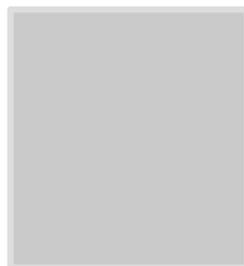


フィジカルセラピスト
羽田圭宏

スタッフ体制 (サポートスタッフ)



アナライジングスタッフ
川口ひかる



アナライジングスタッフ
市川ひかり

65名のアナリスト



マネージャーサポート
中山宇蘭



栄養面サポート
竹内彩

アジェンダ

1. スタッフ体制
2. 活動内容
3. 大会について
4. 振り返り

活動内容

2018年 12月1日 関西選考会
12月23日 関東選考会

2019年 1月6日 @駒沢1
1月19日 @駒沢補助
1月20日 @駒沢補助
2月9日 @駒沢
2月10日 @駒沢
2月16日-17日 @千葉県保田合宿
3月9日 @駒沢
3月10日 @駒沢
3月23日 @神田外語大
3月24日 @フクダ電子
4月13日 @フクダ電子
4月14日 @よみうりランド
4月20日
4月21日

5月10日-12日 @群馬県合宿
5月25日
5月26日 @よみうりランド
6月15日 @よみうりランド
6月16日 @よみうりランド
6月22日 @臨海球技場
6月23日 @江戸川陸上競技場
7月6日 @駒1
7月7日 @フクダ電子
7月20日 @フクダ電子 (仮)
7月21日 @フクダ電子
7月29日 出発式@羽田空港内

活動日は 計30日

2000名以上の母集団から150名の推薦を対象に選考会を実施。22名を選抜 (18名代表4名補欠)

心

技・体

U19チームで大事にしていること

選手の「主体性」

今後日本のラクロスのトップレベルの中心的選手戦になる存在として捉え、彼女たちの主体性の育成をテーマに設計

時期別共通テーマ

これをテーマとして練習のキーワードやリーダーシップトレーニングのキーワードに

心

技・体



01

自分を知る

自分を知る

まず自分に興味を持つ
自分の考え方、プレー
の特徴など



02

仲間を知る

仲間を知る

仲間にも興味を持つ。
お互いどういうことを
大事にしているのかを
理解し、学びあう文化
づくり



03

仲間との協働

仲間との協働

異なる特性の仲間とど
のようにしたら協働で
きるのか。フィード
バックしあう関係性へ



04

自分たちの
チームを築く

自分たちのチームを築く チームタフネスを築く

誰のチームでもない。
自分たちのチームとい
う認識の向上。チーム
として何を意図して挑
戦するのか



05

チームタフネス
を築く

チームで苦しい時間帯
どのように乗り越える
のかを鍛える

技術・戦術の取り組み

「奇策ではなく、真っ向勝負できるチーム」

- ・一つ戦術を作って、それをもとに戦う。(過去は「奪う」「速く速いらクロス」「プレスライド」「アコーディオン」など)→「策を教える」のではなく、考え続けられる力を育て、選択肢を共有する
- ・「攻めはDFから」→守りから攻め続ける
- ・「フルコートオフense」→リストレを数的優位に超える
- ・男子選手との練習の積み重ね
- ・トレーナー二人体制によるトレーニングとケアの徹底・フリーアップ
- ・自主練習の時間の確保



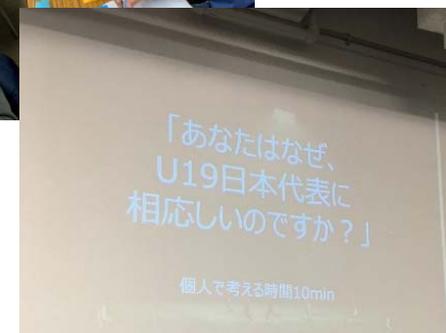
「主体性」育成のための3つの取り組み



日々の振り返り、発信
の習慣化



GMと選手全員、HCとキャ
プテンの1on1面談

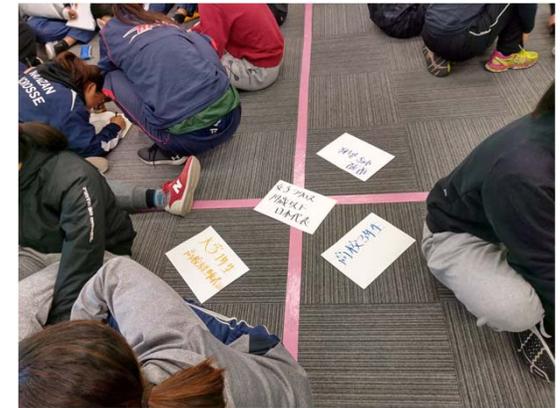
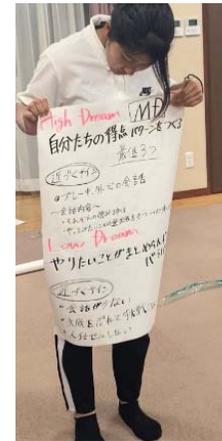


練習とセットで
合計12回のリーダーシップ
トレーニング

リーダーシップトレーニング

対個人

- ・個人の振り返りの習慣化
- ・自分にとって何を成し遂げるためのU19なのか
- ・発言する、人前で話すことに慣れる



対チーム

- ・ティーンズ卒・未経験者、学年ごとの情熱や葛藤を理解し合う
- ・ポジションで現状を理解し、お互いに要求し合う場
- ・お互いに遠慮ではなく、良いところもさらに期待しているところもフィードバックし合う場
- ・チームの最悪の事態を共有し合って対策を考える場
- ・練習前にTEAMとしてどうありたいかを決めて実行する仕組みづくり
- ・U19日本代表を取り巻く環境理解と自分たちの役割の再認識



その他：保護者会の開催

開催日：

1回目 2019年3月10日

2回目 2019年6月23日

目的：

- ・活動内容理解
- ・保護者同士のコミュニティ化

効果：

- ・顔を知れるため、練習会場において不審者にも気づきやすくなった
- ・保護者会に参加された保護者とは特に活動への理解と適切な関係性を築くことができた
- ・大会に17家族中9家族が応援に駆けつけ、現地での心強いサポートになった



アジェンダ

1. スタッフ体制
2. 活動内容
3. 大会について
4. 振り返り

大会概要

正式名称：
第7回FIL女子19歳以下世界選手権大会



【大会概要】

大会主催：World Lacrosse

大会期間：2019年8月1日～10日

開催地：カナダ・ピーターボロ

滞在先：Fleming College



全23ヶ国

目標：世界ベスト3

Pool A
Canada
USA
England
Australia

Pool B
New Zealand
Japan
Wales
Scotland

Pool C
Germany
Jamaica
Republic of Korea
China
Kenya

Pool D
Czech Republic
Ireland
Mexico
Chinese Taipei
Uganda

Pool E
Israel
Haudenosaunee
Hong Kong
Belgium
Puerto Rico

試合結果

予選リーグ

日本○20-1スコットランド
日本○21-7ウェールズ
日本○13-6ニュージーランド

決勝トーナメント

日本○11-9ホーデノソーニー
日本●7-8オーストラリア
日本○15-9ウェールズ
日本○12-7ニュージーランド
6勝1敗 世界5位



アジェンダ

1. スタッフ体制
2. 活動内容
3. 大会について
4. 振り返り

振り返り（HC）

- Good
 - ・技術・体力・スカウティングすべてを含めて日本のレベルの高さを感じた。
 - ・大会通して、ドロワーの支配率が高かった。国内で苦戦し、様々なドロワーと対決したこともよかった。ただ、力で勝負する外国人に対して、上に挙げさせないドロワーでボールを支配することができた。
 - ・ドロワー Gセーブ 1on1は、アメリカの次と言っても過言ではない。
 - ・選手自身で解決する力の向上が見られた。
 - ・フルコートオフェンスで得点を積み重ねることができた
 - ・SNS等ですぐ動画が見れることが、日本と世界の技術の差をなくす。
- Bad
 - ・大事なところで 1 点を取る能力の差・勝負弱さ
 - ・主体性を強要しすぎた点
 - ・選手ファースト ≡ 甘やかし
- Next

U19世代はアメリカの一強であり、日本のラクロスは、世界に十分通用する！

振り返り（GM）

● GOOD

- ・リーダーシップトレーニングによってそれぞれの時間に任せるチームづくりから「意図する」チーム作りができた。
- ・一体感の度合いが2月で平均43.6%がW杯時は83.7%になっている（時期別選手アンケートより実感値として調査）
- ・マネージャーを自薦推薦の中から採用できたので、補い合える関係で連携ができた。
- ・その他スタッフ同士の役割分担はできていた。特にトレーナー二人体制だがトレーニングとケアで分けて連携が取れた。
- ・現地のラクロスOBが積極的にサポートしていただけたので、食事に困ることはなかった。
- ・保護者会を2回開催したことで保護者同士の繋がりができてこちらが何か関わる必要性はなくなり楽だった。
- ・大きな怪我は大会中にはなかった。

● BAD

- ・目標である3位は取れなかった
- ・HCにフィールドは任せていると言いつつも、感じている違和感をもっと伝えた方が自分たちを多角的に見えた。
- ・練習・リーダーシップトレーニング共にメリハリがあると良い。
- ・一部うまくコミュニケーションができなかったご家庭があった。

● NEXT

- ・コーチやスタッフは英語ができることを条件としても良い。U19においては英語ができるスタッフを最低4名いると良い。
- ・ドーピングや様々な大会承諾書など書類が多いため、協会側で別途対応できる人がいると尚良い。
- ・ウェブなどに写真掲載においては日本代表として一律で載せる方向性でないと大会側との管理が難しい。
- ・保護者は無視できない存在になりつつあり、そこどう対峙するかは意識した方が良い。
- ・気になっているご家庭とは早めに話し合いをするべき。